

特別研究員学内公募説明会配布資料

学振特別研究員について

～「なるまで」と「なってから」～

文学研究科 英文学専攻 博士3年

2019年度 DC 2 採用

木村 崇是

資料内容 (研究助成課より指定)

- 講演者の専門分野・博士課程での研究状況について
- 特別研究員 (DC) 採用中に得たものーメリットとデメリットー
- 特別研究員 (DC) 申請に向けて
- 採用中の研究状況

私の所属と専門分野

所属： 文学研究科 英文学専攻 博士3年
2019年度よりDC2 (英文学専攻初!)

専門： 応用・実験言語学 (応募領域：外国語教育)

— 第二言語習得のメカニズムの解明

— 第二言語文法から人間言語文法理論への示唆

理論言語学 (応募領域：言語学)

— 人間言語の文法理論の構築

専門領域が2つあるため迷ったが、最終的に
「外国語教育」で応募

ResearchGate



Google Site



略歴

学部3年
MI@中大

- ・国際学会 (口頭・ポスター)初採択
 - ・トップレベルの国際学会(口頭)採択 (採択率30%), 講談社野間文化財団奨学金受給
- 東北大学へ理論言語学(修士)を学びに . . .

修士@東北

- ・トップレベルの国際学会 (口頭×2, ポスター) (採択率30%)採択
- ・卒論が専門書のチャプターとして出版
- ・全国学会のセミナーで招待講演が決定する (学会史上初の学生講師!)
- ・全国学会 (口頭発表×3, ポスター×1)採択 (うちひとつは採択率20%)

この段階で学振 (DC2) 応募

博士, DC
@中大

- ・アメリカの学会の雑誌, 国際誌に採択
- ・国内誌に3本論文採択 (うち1本は特別寄稿)
- ・1年で世界トップ3の国際学会すべてに採択 (口頭×4, ポ×1) (採択率25%)
- ・招待講演3つ
- ・本のチャプター執筆依頼 (構想段階)

学振DCについてのよくある誤解(?) と個人的見解

- ・「頭が良くないと取れない?」

→ 反例：私...

- ・「業績がないと採択されない?」

→ 重要な判断材料ですが、DC1取ってる人の業績もスッカスカなことが多い。

- ・「自分は採択されないと思うので、申請はやめよう...」

→ 申請書を書くと、自分の博論に向けての研究の方向性が明瞭に！

+ 「なんで私が学振DCに?!」 ケースも多数

- ・「旧帝出身じゃないと取れない?」

→ 事実、旧帝の人が多いですが、判断されているのはあくまで「個」！

彼ら、めちゃくちゃ勉強・研究してるんです・・・

学振DCで得たもの ーメリット・デメリットー

メリット

- ・ **経済面**

研究奨励費月20万 + 研究費 (最大150万) (RAや非常勤との掛け持ちも可)

→ 国内最大級の経済的補助

研究費は学会渡航費, 図書費, 実験の謝礼などにも使える.

他にも, 論文投稿費など, 研究実施・成果発表に必要なコストはカバーできる!

メリット

- ・ステータスとして

国内で目立った実力を示す若手は、ほぼ確実にDC持ち。

(学会で目立ってる若手心理言語学者達(n=7)で研究会を作りましたが、創設メンバーは全員学振DC採択者😱!)

→ DCに採択されていれば、見知らぬ人からも一定の評価を受けられる。

メリット

- ・ **研究計画の整理**

研究計画書には「これまでの研究」, 「自身の研究の位置付け・独自性」, 「計画」を書く必要がある.

→ 博論を書く上で整理すべき内容が凝縮

博論の内容・方向性について考えるいい機会

(私はこの過程のおかげで博論のテーマが定まった.)

あえて挙げるデメリット

- **採用期間の問題**

D3までに博士号が取れないと、D3以降収入がなくなる可能性 (税金が重荷に...)

→ D3までに博士号が取れる見込みがない人は、一旦応募を見送り、D2でDC2に応募するのもアリ。

あえて挙げるデメリット

- **地味にプレッシャー・・・**

上記の理由 (+DC取得者としてのプライド(?))から , DC取得者は3年で博士号を取得することがとても多い.

→ けっこうプレッシャー

(実体験 : 友人「え... お前DC取ってるのにD4までやるつもりなの...?」)

学振DC採用へ向けて

Step 0: 研究成果発表

- ・ 応募を見越して事前に研究成果発表に注力

見知らぬ研究者の実力は、基本的に業績で判断するしかない。

業績ゼロ = これまでの積み重ねの証拠の欠如

→ 研究計画を実行するための信憑性のある証拠がない

と判断される可能性大

(私の場合、学振応募に備えて、前年度にスパート。まだ発表して
いなくても採択されていれば申請書に書けます。)

Step 0: 研究成果発表

- ・ DC1は大半が業績が少ないので、業績が少なくても研究内容で勝負できる!
- ・ DC2は国際学会 (できれば口頭発表), 査読付論文がないとかなり厳しい... (でも業績ほぼなしで, 面接合格した知り合いも!)

Step 0: 研究成果発表

表1. 知り合いの DC応募者の結果 (言語学・外国語教育の場合): 青セル=採択,赤セル=不採択

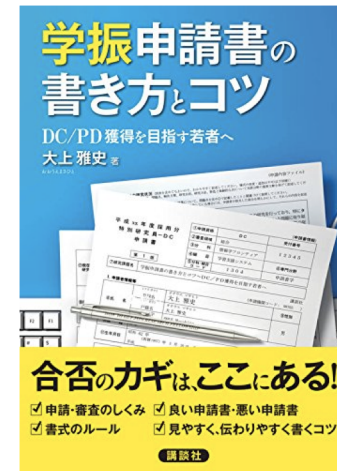
応募区分	査読有論文	国際学会口頭	国際学会ポスター	国内学会口頭	国内学会ポスター	特筆すべき事項 (受賞など)
DC1🌸	0	1	4	2	0	国内学会 発表賞
DC1🌸	0	0	2	0	2	なし
DC2🌸	10	6	5	9	0	国際学会 Travel Award
DC2🌸	3	3	2	7	1	学会招待講演 本出版・奨学金×4
DC2🌸	6	0	0	17	0	なし
DC1	0	0	0	2	0	なし
DC1	0	0	0	1	0	なし
DC2	1	0	1	0	1	なし
DC2	4	0	0	4	0	なし
DC2	3	0	0	4	0	なし

Step 1: 良い申請書を集める

- ・採択されている申請書を集める

本やネットに採択書類や不採択書類が落ちている。
知り合いに採択者がいたら絶対に見せてもらうべき！
(私は10人分くらいの申請書を読んで書き方を学んだ)

査読や審査に慣れている審査員からしたら、(不)採択は申請書を
一見しただけで大体明白 (な気がする)。



Step 2: 申請書準備

- ・ **明瞭でインパクトのある書類を！**

国際学会・国際誌で採用されるアブストや論文との共通点

① これまでに何がわかっているか

② 何がわかっていないか and/or 先行研究の問題は何か

③ どう明らかにするか (実現可能性のある計画)

①や②を明瞭に書けば、③に散りばめた「独自性」「卓越性」は自ずと際立つ。どれか1点でも不十分だと不採択まっしぐら。

Step 2: 申請書準備

ボールドと下線を活用すると読みやすくなります

・ 専門外の人にもわかる文章を！

▶ 論文用

普遍文法における中心的操作は併合であり、レキシコンから選択された語彙項目に形式素性を再帰的に併合させることで文が構築される。

▶ 申請書用

人間言語を構成する基本的な単位として、句や文がある。それらは単語同士の組み合わせのみによって構築されるのではなく、[単数]や[時制]などの文法的役割を担う「**素性 (feature)**」と結びついて構成される。

これなら (少なくとも言語学者の審査員達には) 大体言ってることがわかる。

Step 3: 校正

- ・ 専門内外の人に見てもらう

審査員が狭い意味で同じ専門とは限らない (し, 基本違う).

ー 例えば, 私の専門は, 「チョムスキー理論に基づく言語理論的アプローチ」.

過去の審査員の専門は「**反**チョムスキー理論言語学」, 「脳科学的アプローチ」, 「危機言語のフィールドワーク」など....

さいごに

- ・ **私の学振採用中の研究状況について** . . . ResearchGateやHPに掲載しています。ご興味がおありの方はご覧ください。

本資料が少しでも皆様のご参考になれば幸いです！

Good luck !! 🙌